メジャーリーガー 井口資仁選手に 弊紙が独占インタビュー！

シカゴでの日々、フィラデルフィアへの移籍、そして来シーズンの新天地について語る

記事／写真＝土井英樹（ジャングル）

去る11月25日（日）、シカゴ郊外の日本料理レスラン「乍久真」にて元シカゴホワイトソックス／元フィラデルフィア・フィリーズの現役メジャーリーガー井口資仁選手のプライベートパーティーが地元の親しいファンや交流の深い関係者を集めて盛大に行われた。パーティー当日、本紙は井口選手に独占インタビュー。記者を前にシカゴの日々、トレード、来季について胸中を語ってくれた。

本紙のインタビューに答える井口資仁選手＝11月25日、シカゴ郊外ストリームウッドの「乍久真レストラン」にて。

—今シーズン半ば、7月末のフィリーズへの電撃トレード、当時を振り返ってみて今だからこそ語れる心境は？

（井口選手）フィラデルフィアには遠征で訪れたことがあったんですが、あまり日本人が多く住んでるという環境ではないですよね？アトリーという正二塁手もいるし、まさか自分がフィリーズに移籍するとは思っていなかったんで、その話を聞かされたときにはかなりビックリしましたね。球場に行ったらスタメンのメンバー表に既に名前が載っていたんで冗談かなと…（笑）。ただチームの中に入ってみると、ソックスが一昨年優勝したときの様な機動力を使えるチームでしたし、当時はメッツを追いかけて2位に付けてる状態だったんで、本当に優勝したというチームの雰囲気が感じられました。自分がその中で一番打者として認められているのも、非常に嬉しかった。そういう意味では凄くやりがいのあるチームに行けて良かったと思います。トレード時、ソックスは最下位に落ちそうなチーム状況でしたし、自らをもう一度奮い立たせるという意味では、良い転機だったのではないかと今振り返ってみれば思えますね。

—メジャー最初のチーム、そしてワールドシリーズ優勝という偉業を果たされたソックスを離れる寂しさの様なものは？

ソックスというよりは、シカゴから離れることが非常に寂しかったですね。家族もシカゴに住んでいましたし、子供はシカゴの学校に通っていたんで、フィラデルフィアには単身で行ったんです。シカゴでは、休日には家族で出かけたり、「乍久真」さんの様に気軽に日本の料理を食べに行ける環境が有りますけど、フィラデルフィアにはそういう環境があまりなかったんで、野球以外の日々の生活の面でも本当に寂しかったですね。

—現在複数の球団からラブコールが寄せられていますが。

現時点で公式、非公式に複数の球団からオファーを頂いてます。今後色々な動きはあると思いますが、12月の半ばには行き先が決まるんじゃないかと思っています。現時点でどこが有力といった話は私の口からは語れませんが（笑）。出来ればシカゴが良いんですけどソックスからはあまり良い条件のオファーが貰えなかったので、寂しいですけどね。ソックスに関しては、まだオジー（監督）のやりたい野球になっていないのかなと思いますし、そう言った意味でも寂しさを感じます。まあ、それはそれで、何処にせよ、次のチームに行ったらその地で全力で頑張りたいと思っています。次は家族も一緒で、球場にも応援に来てくれると言ってくれてますんで、楽しみですね。

—フィリーズからは、三塁手へのコンバートで残留をというオファーも出されていたと伺ってますが。

フィリーズからはサードとして凄く良いオファーを頂いて、サードをやってもいいかなとも考えたのですが、やっぱり自分にとっては未知のポジションなんですね。恐らく今回が最後のFAになりますので、セカンドとして自分自身身今までやってきた締めくくりという意味もあって、セカンドとしてなんとか最後まで貫きたいなという気持ちが強かったんです。ですからセカンドでレギュラーポジションを確約してくれるチームと契約が結べれば良いなと思っています。

—井口選手のこだわる三塁手の醍醐味とは？

二塁手というのは、全てのプレーに絡めますし、センターラインというのは、僕自身の野球にとって絶対に必要なものだと思ってます。チームの要としてそのポジションを守ることが僕自身の野球のスタイルなので、そこはまだまだ自分の中で捨てる訳にはいかないなというのはありますね。

—フィリーズに移籍した後も尚、シカゴの皆さんは「我が街のメジャーリーガー」として井口選手へ声援を贈り続けてくれましたよね。

そうですね、今日もたくさんの人に集まってもらって嬉しいですね。僕自身シカゴが自分のアメリカのふるさとだと思ってますし、メジャー最初の土地がシカゴで本当に良かったなと思っていますよね。来年どこに行くかは決まっていませんが、僕にとっても家族にとってもシカゴ以上に良い生活環境を求めようと思うし、結構厳しいですよね。ハードルが高いですね（笑）。乍久真さんをはじめ、シカゴの皆さんには家族ぐるみで本当に親しくさせてもらったし、地元日本人コミュニティーを挙げての応援も心強くて嬉しかったです。やっぱりシカゴはしみじみ良かったなと思いますよ。

—最後に中西部のジャングル読者の皆さんにメッセージをお願いします。

本当に3年間応援していただいて感謝しています。来年メジャーで何処のチームにいっても中西部の街には遠征で来れますし、中西部は日本人の方もどんどん増えているそうなんで、是非球場に足を運んで頂いて、引き続き応援して頂けると嬉しいですね。

井口選手に行きつけのレストラン「乍久真」のサクマセイジシェフのコメント

井口選手はシカゴでホームゲームがある週末などには、ゲーム終了後、よく当店にご家族でいらっしゃっり、家族ぐるみでのお付き合いもさせて頂いていました。日ごろ緊張感張り詰める勝負の世界にいらっしゃるからでしょう、当店を訪れる際は逆に、とても寛いでご家族と一緒に楽しまれていてましたね。常連のお客様たちもとてもフレンドリーですから、井口さんも気さくに他のお客さんとカウンターで談笑されたりしてリラックスされていました。井口さんにとっては、当店は骨休めができるシカゴの第二の我が家の様な場所だったと思います。井口さんがシカゴにいらっしゃった3年間、毎年シーズンが終わると当店でプライベートのパーティーも催させて頂きました。その中でも一番印象に残っているのは、2005シーズンにホワイトソックスが、ワールドシリーズ優勝を飾ったときの祝賀パーティーですね。また、その年は井口選手の計らいでシーズン中に、ホワイトソックスのロッカールームへ私も自ら出向き、出張寿司パーティーなどもさせていただきました。ギーエン監督はじめ、ソックスの選手たちも大変フレンドリーで、"SUSHI POWER"といって大変喜んでくれましてね、良い思い出です。

いろいろな球団からラブコールが掛かっているみたいですが、来シーズンの何処の球団に行かれても井口選手ならレギュラーポジションをかっちりと獲得できる実力の持ち主ですから、活躍されること間違いなしです。体に気をつけて新天地でも頑張ってもらいたいですね。応援していますよ。

サクマシェフから井口選手へ1945年物、フランスのブランデーが贈られた。

12月4日に33歳の誕生日を迎える井口選手のためにバースデーケーキも登場。このサプライズの贈り物に、井口選手も満面の笑顔。

嬉しいファンと料理を囲んで談笑する井口選手。写真撮影にも気軽に応じ、井口選手の気さくな人柄が伺える。

プライベートパーティーに集まったシカゴのサポーターと一緒に記念撮影。

シカゴのサポーターからの応援メッセージ

「来永くメジャーリーグで頑張って頂いて、日本人プレーヤーとしてメジャーリーグ最長不倒距離の樹立を期待しています。来季以降も頑張ってください。」（ケント・ウエキ氏＝CCI Manufacturing Inc. Corporation）

「井口さんはガッツのある方です。そのガッツをプレーに活かし、いつもポジティブで、笑顔でいられるというのが井口さんの素晴らしさですね。そのポジティブな性格を活かせばどこのチームに移られても活躍されると思います。応援しています、頑張ってください。」（鞍山 正雄氏＝TSURUMI(AMERICA), INC.）と里美さん（ご夫妻）（写真左）